

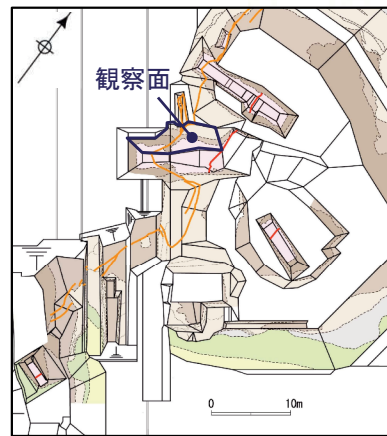
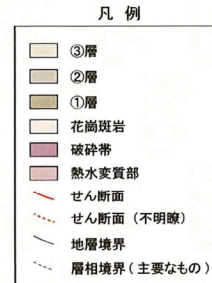
2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット北面 スケッチ)

- D-1トレンチ1-1ピットでは、K断層は基盤岩から③層を変位させ、北面では、②層上面の鉛直変位量は1.1mである。
- 岩盤部において、K断層は北法面ではN-S方向で高角度西傾斜であり、断層ガウジを伴う。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

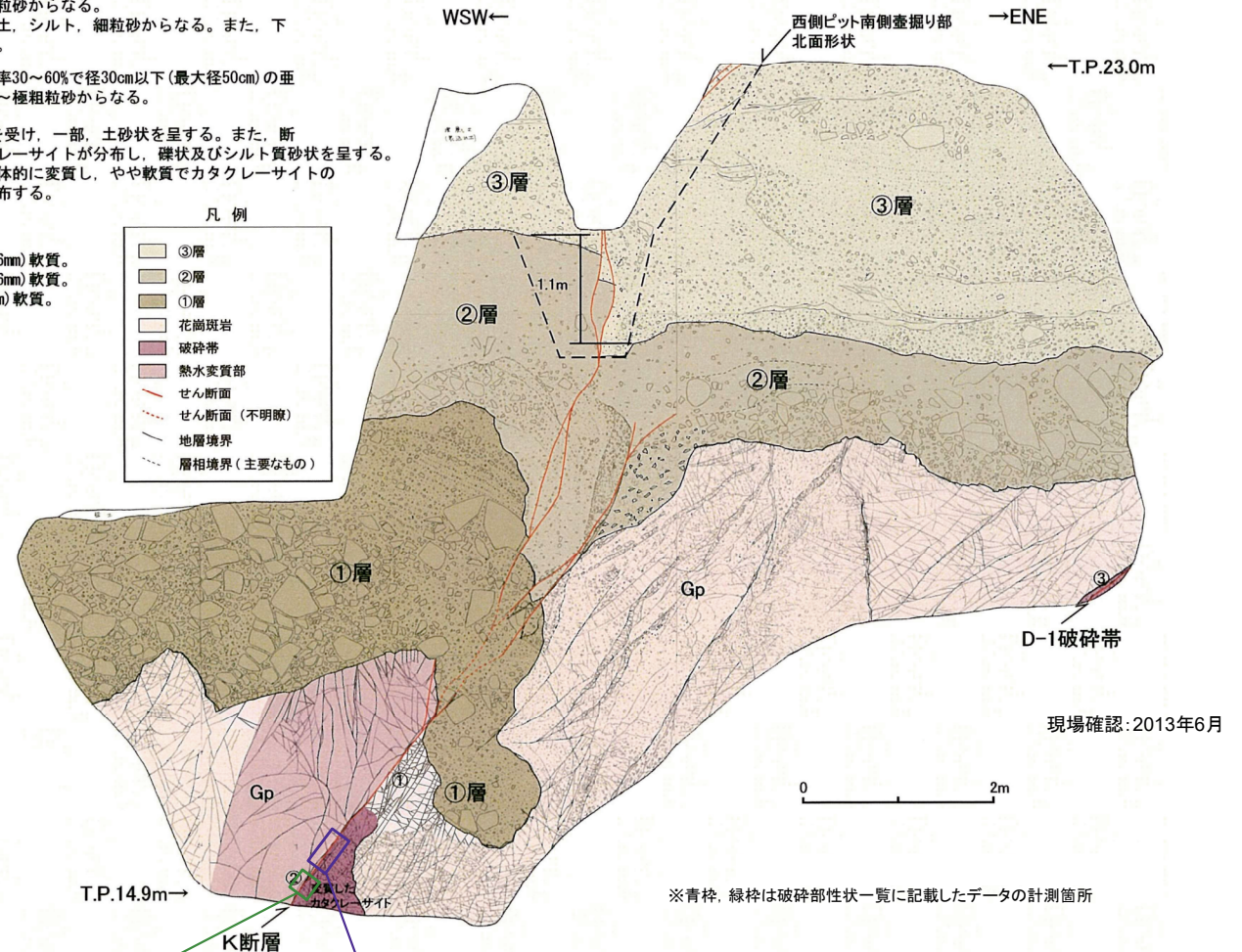
- ③層: 砂礫を主体とする。浅黄橙色 (7.5YR8/3)。礫率20~40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。
- ②層: シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色 (5YR7/4)。礫率15~25%で径10~70cm程度の角~亜角礫からなる。基質はシルト及び中~細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層: 砂礫を主体とする。浅黄橙色 (7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。
- Gp: 花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトは全体的に変質し、やや軟質でカタクレーサイトの特徴が認められる。また細粒部は網目状に分布する。

- ①: f: N14° W64° W 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅2~6mm) 軟質。
 ②: f: N10° W61° W 断層ガウジ (灰褐色粘土: 幅3~6mm) 軟質。
 ③: f: N6° E65° W 断層ガウジ (橙色粘土: 幅2~15mm) 軟質。

f: せん断面



調査位置図



断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所(1-1ピット北面)

走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面: 12箇所のデータを平均化)

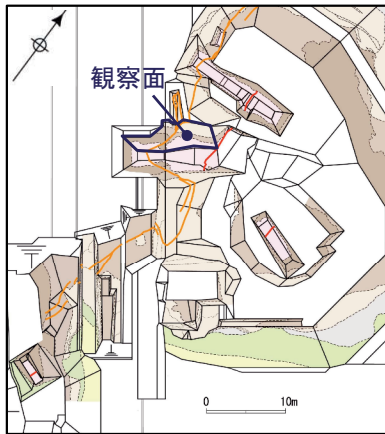
※青枠、緑枠は破碎部性状一覧に記載したデータの計測箇所

現場確認: 2013年6月

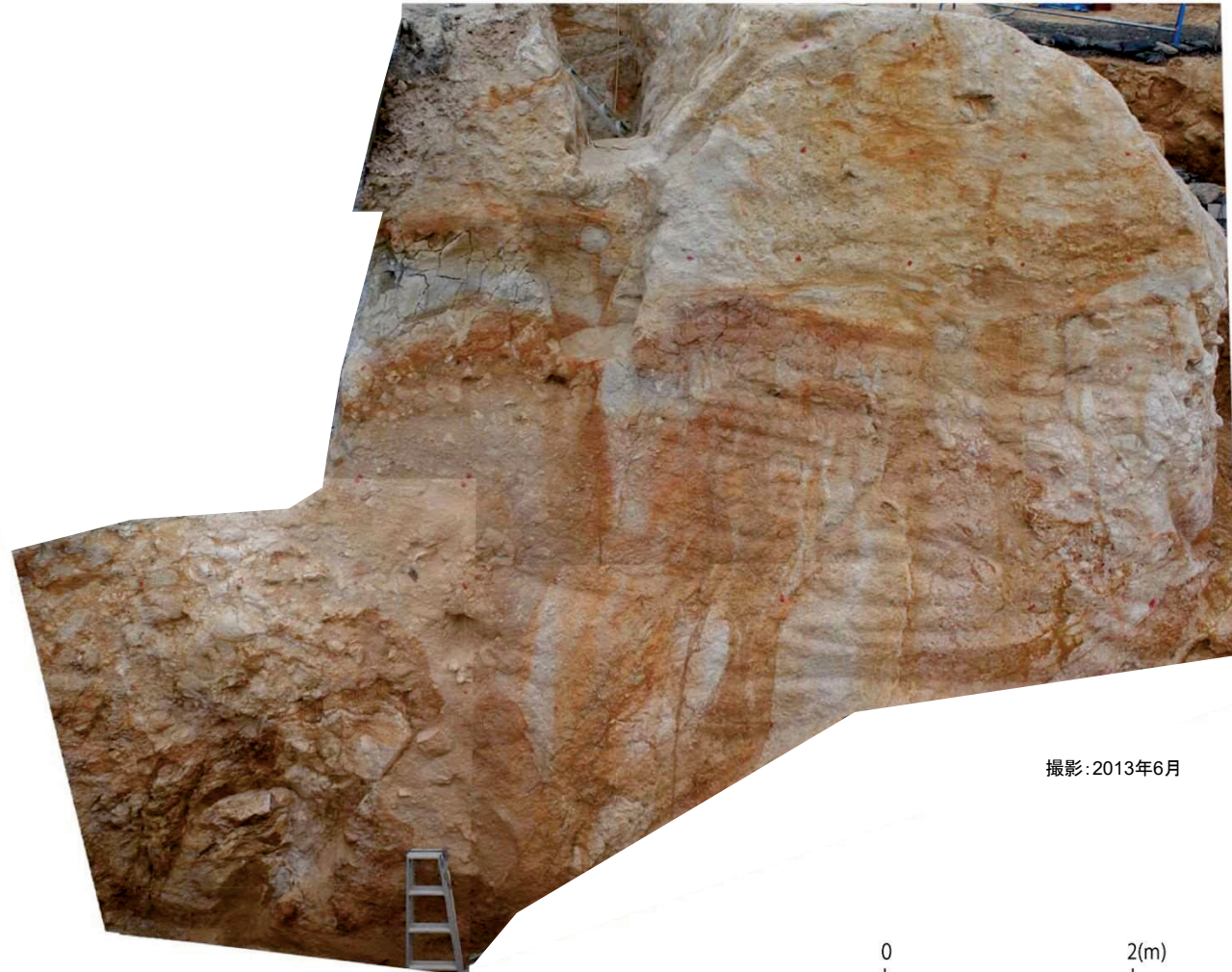
2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット北面 写真)

WSW←

→ENE



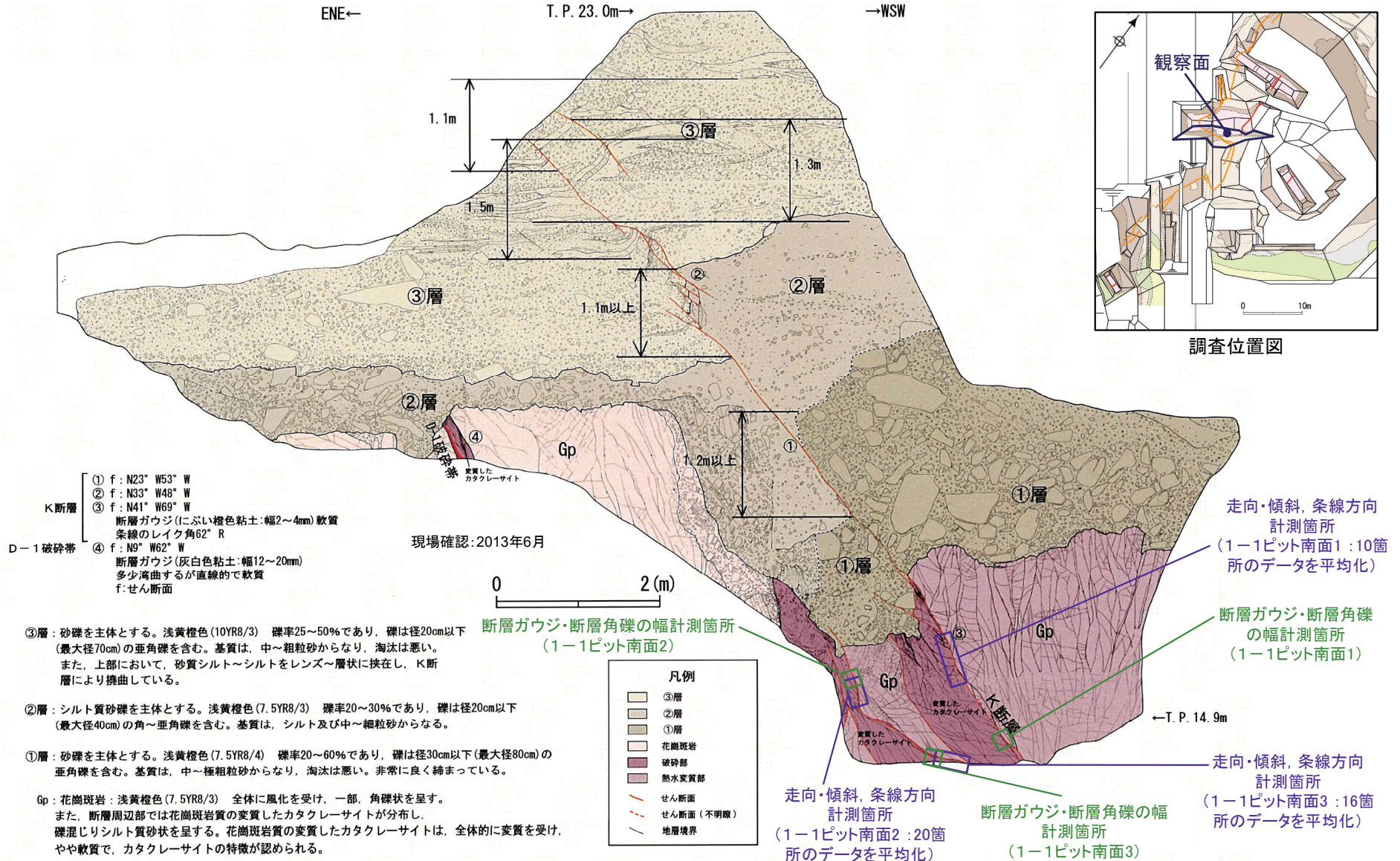
調査位置図



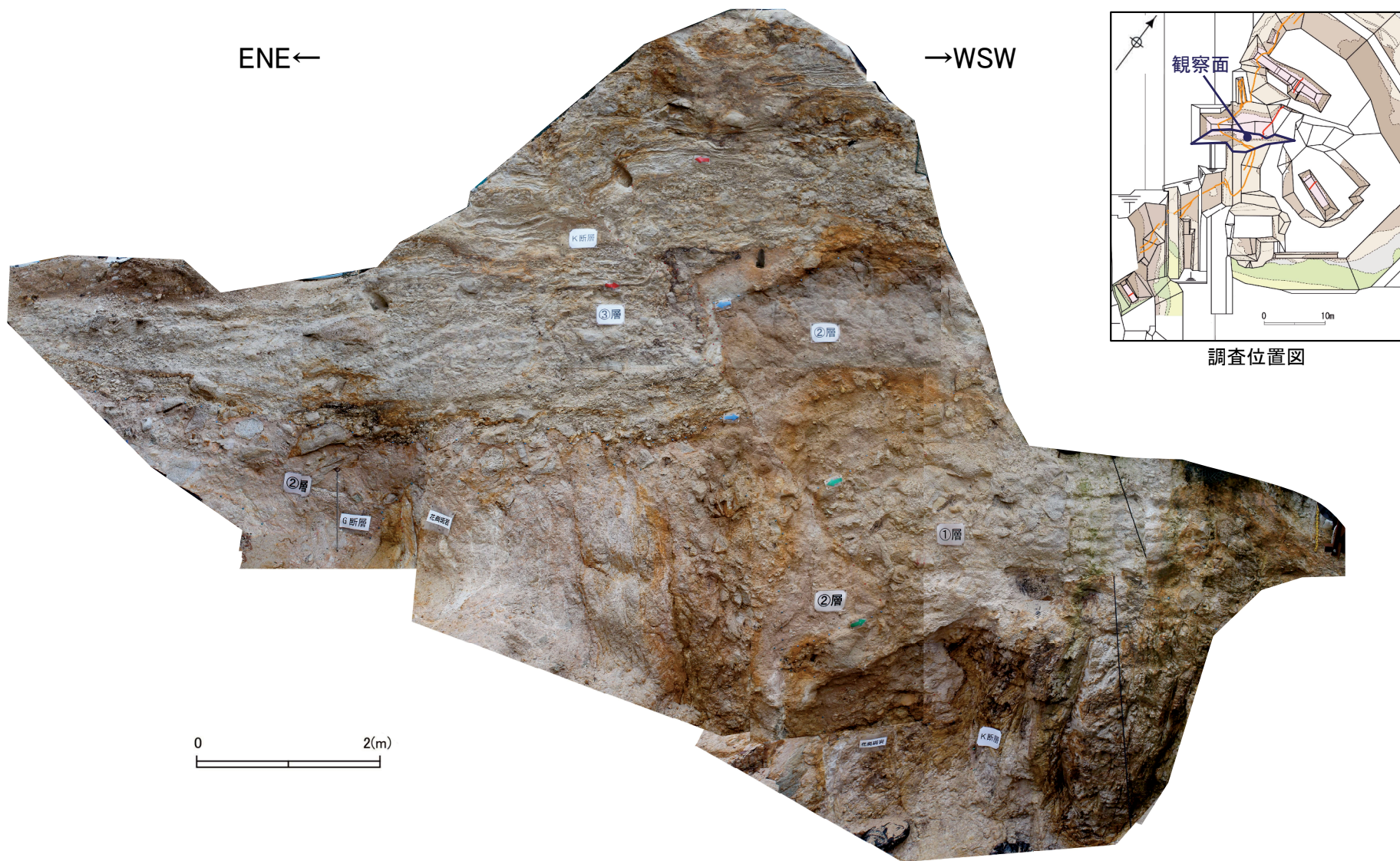
1-1ピット北面写真

2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット南面 スケッチ)

- D-1トレンチ1-1ピットでは、K断層は**基盤岩から③層を変位させ**、南面では、**①層上面で1.2m以上**、**②層上面で1.1m以上**、**③層内で最大1.5m**である。
- 基盤岩中では、K断層は**南法面ではNW-SE方向で高角度西傾斜に変化**するとともに**断層ガウジをほとんど伴わなくなる**。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、**縦ずれ成分が卓越**する。
- 堆積時期が異なるこれら**①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定**であり、**断層変位の累積性は認められない**。



2.2.1.6 1-1ピット (1-1ピット南面 写真)



1-1ピット南面写真

撮影: 2013年12月